コミュニティ・スクールだより

令和５年度　№２３

～菅能宇吉さんにまつわる方々から直接学ぶ～

昨年度のはじめに、法蓮寺の住職でもあり、奈良県の橿原考古学研究所特別指導研究員をされていた前園実知雄先生から「伝説の石工菅能宇吉さん」について教わってから２年目に突入。今回は「上林の伝統を未来に伝える」を主題として、さらに深化した学習を展開していきました。子どもたちのために協力してくださった皆さん、ありがとうございました。子どもたちの学びの過程を紹介します。

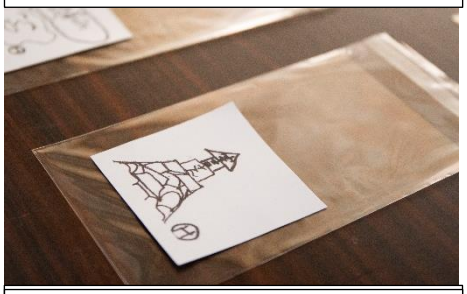
「宇吉さんへ」のはがき歌を作り紹介し合った子どもたち

松山城の動画を見て、宇吉さんの名が刻まれている石垣を探す様子

マッピングをすることで、宇吉さんのものの見方や考え方・生き方について協働的に追究しました。

「あったー！」
宇吉さんの名前を発見！

アンケートから、宇吉さんのことをもっと詳しく知りたい人が多いことが分かりました。



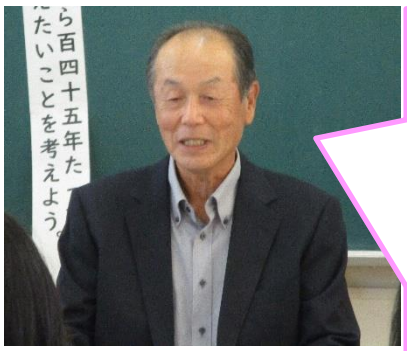
ゲストティーチャーの皆さんに、宇吉さんグッズを紹介しました。

石垣グッズ作りでは、ミニ石垣や鉛筆立て、宇吉さんシール、名言入りしおりを作りました。

道具の使い方を教える森光夫さん

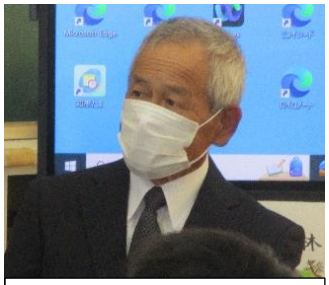
みふいたさん作の宇吉さんの歌の CD を持って来てくださった大西さん

上林の伝統を未来に伝える
宇吉さんが生まれて145年経った今、できることを考えよう



森光夫さんより（一部御紹介します）

宇吉さんは、「伊予の大石回し」と言われて大変有名な方でした。宇吉さんは、野面積みが優れていたのだと思います。宇吉さんは、石を見るなりどの様に積んだら良いか一目で分かるセンスがあったのだと思います。デコボコとした丸い石をいかに積んだら狂わずに、安定をするか判断力が優れていたのだと思います。上林も、少し前までは、田んぼや川の護岸はすべて石積みでした。小さい頃に、手動でウインチを回しながら堰の改修工事をしているのを見た記憶があります。宇吉さんは、石積みの仕事をしながら、技術を磨き、壊れない、崩れない、きれいに石を積む技術を磨いていったと思われます。そんな技術が「菅能宇吉」の名を地方から日本へと知れ渡らせたのではないかと思います。私の父も、宇吉さんの弟子として、大阪城をはじめいろいろなお城の修復に行った様です。石積みなら「日本に菅能宇吉在り」と名前を知られる偉業を成し遂げたのは、大変にすごいことで、私たち上林の誇りだと思います。



貴重な資料を提供してくださった
菅能英樹さん

後列左から、森富市さん、菅能宇吉さん、森亀久さん

前列左から、植田照市さん、菅能朋近さん

宇吉さんの末娘　高原カネ子さんより

（夏休みに御自宅に訪問し、インタビューをさせていただきました。一部御紹介します。）

Q１　どのような道具を使って作業をしていましたか？

Ａ１　ウインチを使っていた。大きな石をチェーンで巻いて、ワイヤを引っ張る。宇吉さんが「強く巻け！」「弱く巻け！」「止め！」と言い、ショウセンを使って石の向きを決めていた。宇吉さんが「下ろせ！」と合図をしたら下ろすので、その間は目が離せず、時間がかかって大変だった。宇吉さんは、ええ石を見付けるとワイヤでくくり、ひょいひょいひょいと動かし、じわりじわりと石を積んでいった。一度置いたら、その石は二度と動かんかった。

目を輝かせながら、新たに知ったことを次々と付箋に書き込み、マッピングしていく子どもたちです。

宇吉さんのことをみんなに伝えたい思いがあふれました。